

第16回千葉県サッカー医科学研究会 報告書

医学委員会 村松佑太

2026年3月7日(土) 16時から千葉メディカルセンターにおいて「第16回千葉県サッカー医科学研究会」を開催した。本研究会は、サッカーに関わる医科学的知見の共有を目的としており、ドクターをはじめトレーナーなど、サッカー現場で活動するメディカルスタッフを主な対象としている。今回の参加者は58名(うち医師16名)であった。

一般演題は県内医療機関から3演題の発表があった。血流制限トレーニングによる筋力増強効果、育成年代におけるPeak Height Velocity (PHV)と身体機能の関係、Osgood-Schlatter病の早期発見を目的とした検診の取り組み、についての研究結果が発表され、いずれも現場活動に直結する内容であった。

特別講演では「腰椎分離症に対する治療選択肢 -選手にとって最適な治療とは?-」をテーマに、筑波大学の辰村正紀先生から講演を賜った。腰椎分離症の疫学、検査・診断、保存治療から手術治療まで網羅的に詳しく解説され、最新の知見をupdateすることができた。特に、選手のおかれた状況や将来性を考慮した個別対応の重要性が強調され、他覚的な視点での判断が求められることを学んだ。なお、この特別講演は日本整形外科学会教育研修会として専門医資格継続単位が取得できるよう手続きを行った。

最後に講演終了後、情報交換会を設け、参加者の交流を図る場とし、19時に終了した。

本研究会は久光製薬株式会社が共催となり、広報や会計、会場設営などにおいて協力を得て、滞りなく開催することができた。また、例年3月頃の開催としているが、より多くの現場関係者が参加できるよう、Jリーグシーズン移行なども踏まえ、次回は2027年7月24日開催予定である。



講演終了後の集合写真 前列中央が辰村正紀先生